

特集

種類の豊富さ全国有数!!

～信州の植物の多様性～

大塚 孝一・尾関 雅章

長野県は南北に長く広い面積を持ちまた標高差があり、地形や気候等の変化に富むことから多様な植物が存在します。絶滅のおそれのある植物が集中している地域があることや、近年の温暖化に伴って暖温帯性の植物が増えているほか、外来種の増加も知られています。

植物の多様性

長野県には何種類の植物（維管束植物）があるでしょうか。1997年発行の「長野県植物誌」では、2506種、320亜変種、153雑種、278帰化種の合計3257種類とされています。近年まとめられている他県と種の数だけを比較してみても、長野県の2506に対し、岩手県2179、秋田1896、石川1908、神奈川2438、徳島2257、鹿児島2364などと、調査の完成度にもよりますがわかっている範囲で長野県を上回る種の多様性を持つところはありません。

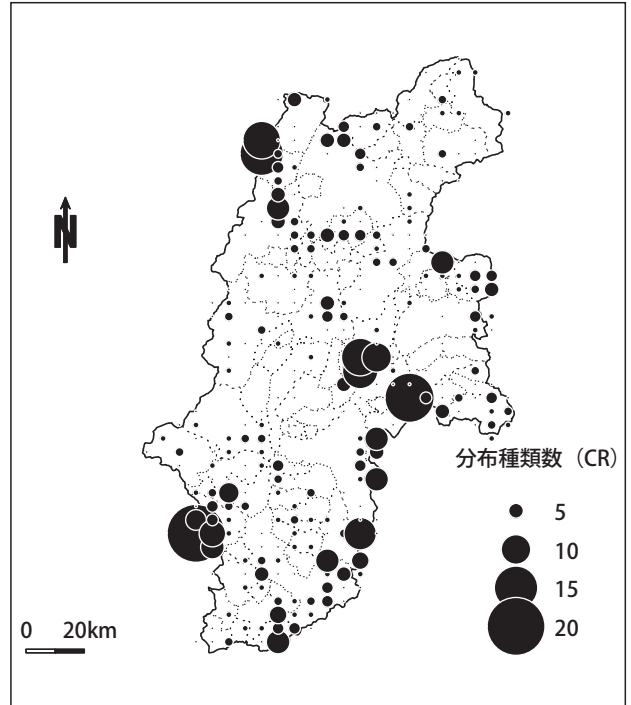
特色ある植物として、主に太平洋側に片寄って分布する種類（例えばイヌガヤ）、日本海側に片寄って分布する種類（シラネアオイ）、中部山岳を中心に分布する種類（ヤツガタケトウヒ、チチブリンドウなど）、フォッサマグナ地域特有な種類（ハコネコメツツジ）、東海丘陵地域特有な種類（ハナノキ）、高山植物といわれる北極周辺を中心に世界に広く分布する種類（コケモモ）、長野県の固有種（コマウスユキソウ、タデスミレなど）などの特色ある植物が存在します。



長野県固有の高山植物であるコマウスユキソウ

絶滅危惧植物のホットスポット

県内で絶滅のおそれのある植物が最も集中して分布している地域としては、木曾地方南部や北アルプス北部（白馬岳周辺）、八ヶ岳、霧ヶ峰周辺があげられます。これらの地域は、木曾地方南部は、より暖地性の植物の分布境界に位置すること、北アルプス北部および八ヶ岳周辺では、高山性の植物を中心に固有種の多い地域であること、そして霧ヶ峰周辺は、高層湿原と広大な半自然草原が分布する地域であることを主として反映しているものと考えられます。



絶滅危惧植物のホットスポット（集中分布地域）。長野県版レッドデータブックで絶滅危惧IA類（CR）にリストされた植物の、5倍メッシュ内で確認されている種類数

植物の多様性の危機

長野県では、現在ニホンジカの個体数が増加しています。県版レッドデータブックが作成された1990年代後半、植物の減少をひきおこす主な原因は、生育地にたいする開発行為や採取圧、里山の植生の変化などとされ、シカの影響はあまり強く認識されていませんでした。しかし、現在では、絶滅危惧の要因としてシカの摂食圧が各地で注目されるようになってきました。また、特定外来生物オオカワヂシャが繁茂し、交雑することで在来希少種カワヂシャの生育を脅かすように、外来種の繁茂により希少種が影響を受ける状況がでています。



特定外来生物に指定されているオオカワヂシャ